

先日、お寺での行事があり、お参りの方をお迎えするために本堂や庭のお掃除をしておりました。

掃除をしながらお釈迦様のお弟子の周梨槃陀伽のことを思い出します。

お釈迦様に周梨槃陀伽というお弟子様がおられました、周梨槃陀伽はとても物覚えのわるい人でした。自分の名前も忘れてしまうようなひとでした。

お釈迦様はそんな周梨槃陀伽に一本のほうきを渡して「チリをはらい、アカをのぞく」といいながら掃除を続けなさいといいました。

周梨槃陀伽はお釈迦様にいわれたとおりに「チリをはらい、アカをのぞく・・・」と言いながら、毎日毎日、何年も何年も掃除を続けました。

そのうちに周梨槃陀伽はふと気がつきました。毎日これだけ掃除をしているのにチリ汚れやアカは無くならない、キレイにしてもチリやアカは次から次と出てくる。

これは自分の心と同じなのではないかと。チリやアカというのは自分の欲の心、執着の心のことではないのかと。

キレイにしたつもりでもいつまでもいつまでも出続けるものだということに気がつき、悟りを開いたといわれます。

最近はお掃除ロボットがお寺の中を走り回っている姿も見られるようですが、掃除をしながら、自分の姿と向き合い、自分の心の汚れに気がつかされることも大切なことではないでしょうか。